

滋賀県オリジナルイチゴ新品種候補となる有望系統の選抜			
【要約】 滋賀県の栽培方式（高設、無加温、無電照）に適合した、本県初のオリジナルイチゴ品種の候補となる有望2系統は、‘章姫’より果実糖度と果実硬度が高く、出蕾が早い。			
農業技術振興センター・栽培研究部・野菜係		【実施期間】 平成28年度～平成30年度	
【部会】 農産	【分野】 戦略的な生産振興	【予算区分】 県単	【成果分類】 研究

【背景・ねらい】

近年他県でも盛んにイチゴの品種育成が行われているが、育成県外での栽培が認められない品種が増えている。本県のイチゴ生産における主要品種‘章姫’は、滋賀県の栽培方式（少量土壌培地耕、無加温、無電照）で収量性に優れるが、春先の糖度や果実硬度が低いことが問題となっている。また、‘章姫’は県外でも多く栽培されているため、滋賀県の特産品としての訴求力に乏しい。

そこで、本県の栽培方式に適合し‘章姫’よりも品質が高く特産化できる独自品種を育成する。

【成果の内容・特徴】

- ① 滋賀県オリジナル新品種候補となる有望2系統（‘滋賀SB1号’、‘滋賀SB2号’）は、‘かおり野’を母、‘章姫’を父として交配し、選抜した系統である（図1）。
- ② 平均果実糖度（Brix値）は、2系統ともに‘章姫’よりも高い（図2）。さらに‘滋賀SB1号’は、‘滋賀SB2号’、親品種と比べて最も高く、特に冬季の糖度は13%以上と高い（図2）。
- ③ 平均果実硬度は、2系統ともに‘章姫’より硬い（図3）。
- ④ 出蕾日は、2系統ともに‘章姫’より早い（表）。
- ⑤ 可販収量は、‘滋賀SB2号’では‘章姫’と同等である（図4）。‘滋賀SB1号’では‘章姫’より少ないが、‘かおり野’よりも多い（図4）。
- ⑥ ‘滋賀SB2号’は着果数が少ないが、1果重が重く大果である（図5）。

【成果の活用面・留意点】

- ① 近江八幡市安土町大中において、2段階育苗したイチゴを鉄骨フィルムハウス（7.4m×18m）、パイプハウス（6m×17.5m）で栽培して得た成果である。
- ② ‘章姫’より給液ECを高める‘かおり野’に適した養液管理で栽培した結果である。
- ③ 全ての品種、花房で8果に摘果を行った結果である。

[具体的データ]

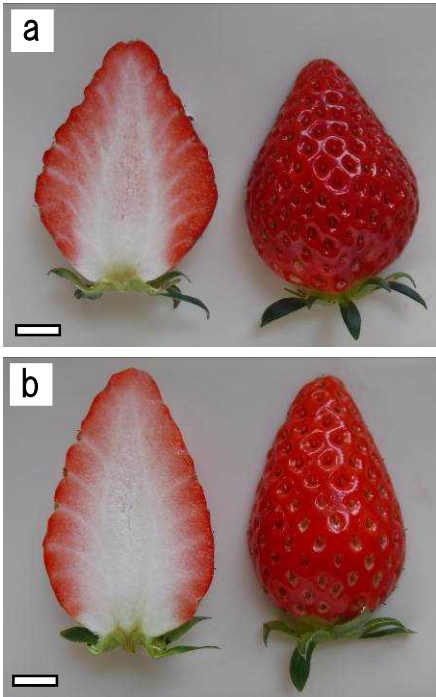


図1 イチゴ新品種有望2系統

a)滋賀 SB1号、b)滋賀 SB2号

スケールバー：1cm

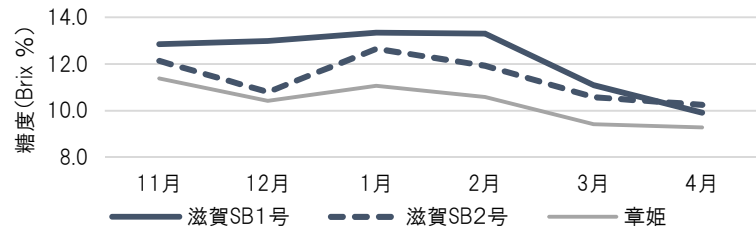


図2 平均果実糖度 (2017年度、2018年度の2か年成績)

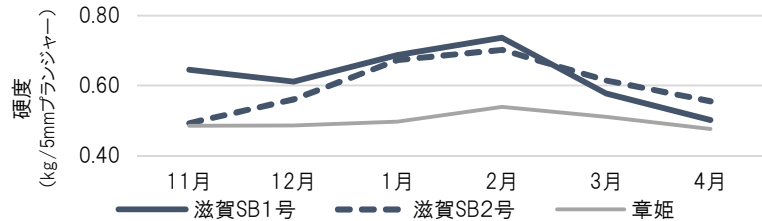


図3 平均果実硬度 (2017年度、2018年度の2か年成績)

表 50%出蕾日

品種	頂花房	1次腋花房	2次腋花房
滋賀SB1号	10/12	12/12	1/21
滋賀SB2号	10/14	12/11	1/31
章姫	10/15	12/12	2/8
かおり野	10/11	11/28	1/10

(2017年度、2018年度の2か年成績)

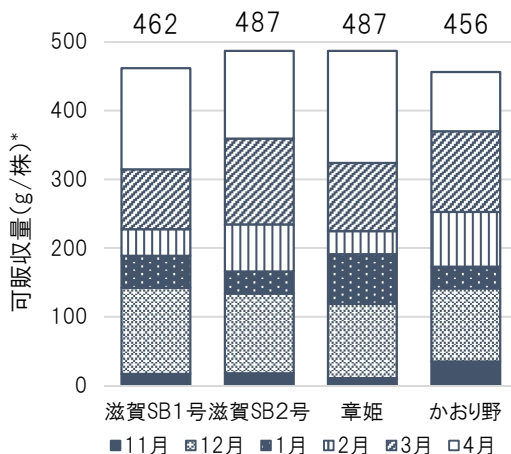


図4 1株あたり可販収量

(2017年度、2018年度の2か年成績)

*グラフ上の数値は11月～4月の

合計可販収量(g/株)

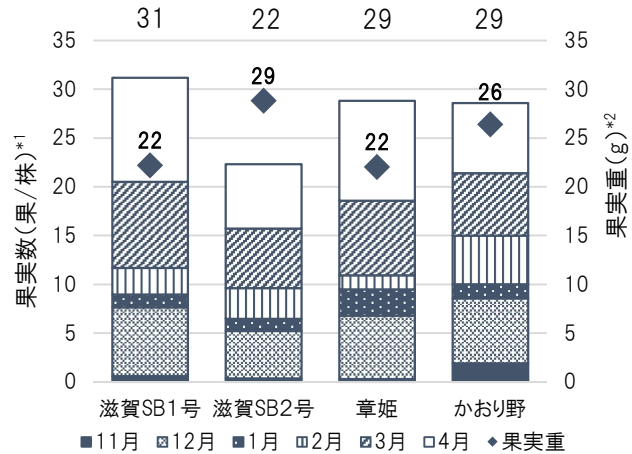


図5 1株あたり果実数および1果実重

(2018年度の1か年成績)

*1 グラフ上の数値は11月～4月の合計果実数(全果実数/株)

*2 グラフ内の太字数値は1果実重(可販収量/可販果実数)

[その他]

・研究課題名

大課題名：戦略的な農畜水産物の生産振興に関する研究

中課題名：野菜等園芸作物や近江の茶の生産振興

小課題名：少量土壌培地耕における施設果菜類の高品質化技術の開発

・研究担当者名：軸屋恵 (H29～H30)、芦田安代 (H28～H30)、那須大城 (H30)、北澤健 (H28～H30)、野口英明 (H28)、山下悟 (H28)、角田巖 (H29)

・その他特記事項：令和元年度滋賀県園芸振興大会(野菜部門)において発表。本成果の一部を品種登録の申請内容として記載予定。